

題名	知識ベース管理システム : Kappa
目的	高度な知識情報処理システムの基盤となる大量かつ複雑な知識を統合管理するシステムである。電子化辞書、数学の知識などを蓄積して、自然言語処理、定理証明処理などの広範な応用に利用可能である。
概要 及び 特徴	<p>Kappa は逐次型推論マシン PSI 上で稼働し、以下の特徴を持つ：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 非正規関係(入れ子)の構造の知識を素直に、表現、蓄積できる。</li> <li>2) 概念ネットワークとして、シソーラスや意味ネットワークが蓄積できる。</li> <li>3) データ型の一つに項(ターム)があり、单一化により検索が行える。</li> <li>4) 具体的応用(自然言語処理、定理証明処理)を設計に反映している。</li> <li>5) 大量(数十万件)の単語辞書や概念辞書を効率的に処理できる。</li> <li>6) 高機能端末インターフェースと、構造エディタに基づくユーザ・インターフェースを持つ。前者は、互いに連動した複数個の表現形式を持ち、それらの間に制約を設定できる。</li> <li>7) 対象指向論理型言語 ESP で記述された最大級規模の基本応用ソフトウェアである。</li> </ol>
構成	<pre> graph TD     subgraph UI_Layer [ユーザインタフェース層]         direction TB         A["構造データ操作支援サブシステム*"]         B["構造データ定義支援サブシステム*"]         C["構造エディタ"]         A --- B         B --- C     end     subgraph KB_Layer [知識ベース層]         D["構造データ(概念辞書*)"]         E["非正規関係(国語辞書*)"]         F["項(定理*)"]         D --- E         E --- F     end     subgraph DB_Layer [データベース層]         G["構造データ(概念辞書*)"]         H["非正規関係(国語辞書*)"]         I["項(定理*)"]         G --- H         H --- I     end     C --- KB_Layer     KB_Layer --- DB_Layer     </pre> <p>(* はデモ中)</p>

## デモ内容 (1/3)

国語辞書の操作・編集 : 1,4,5,6

Kappa に蓄積された 6 万件の国語辞書から単語を検索し、その内容を編集します。

最初にテーブルの構造を御覧に入れます。非正規関係のテーブルの定義を構造エディタを使ったツールから簡単に操作できます。次に、“雨”という語を語尾に持つ言葉を後方一致検索で見つけます。その中で、“五月雨”という単語の内容を詳しく見ます。そして、テキスト形式シートによる編集の簡易性を御覧に入れるために、まず“五月雨”をテキスト形式シートで編集します。さらに、テーブル形式シートとテキスト形式シートとが連動して有効に機能する場面を御覧に入れます。

The screenshot displays the Kappa software interface with several windows:

- Area Window:** Shows a complex network of nodes (prim\*, table\*, struc\*) connected by arrows, representing the internal structure of the semantic table.
- SEMACS (les C-x %):** A command-line interface where the user has entered "top-\*".
- Table View:** A table showing details for the word "さけ" (Sake):
 

単語	科	生息地	産卵場所	漁獲季節	色	体長	食用
さけ	さけ	北海	川	秋		70センチ	肉 卵
ます	さけ	北緯40度以北	川		青苔 苔の小点 腹は銀白色		食用
- Text Editor:** A box containing Japanese text about the fish Sake, which is linked to the table entry for "さけ".
- Buttons:** Buttons for "連動する" (Link), "アゴリ・ウンド" (Agoli Und), and "アゴ・ウンド" (Agou Und).

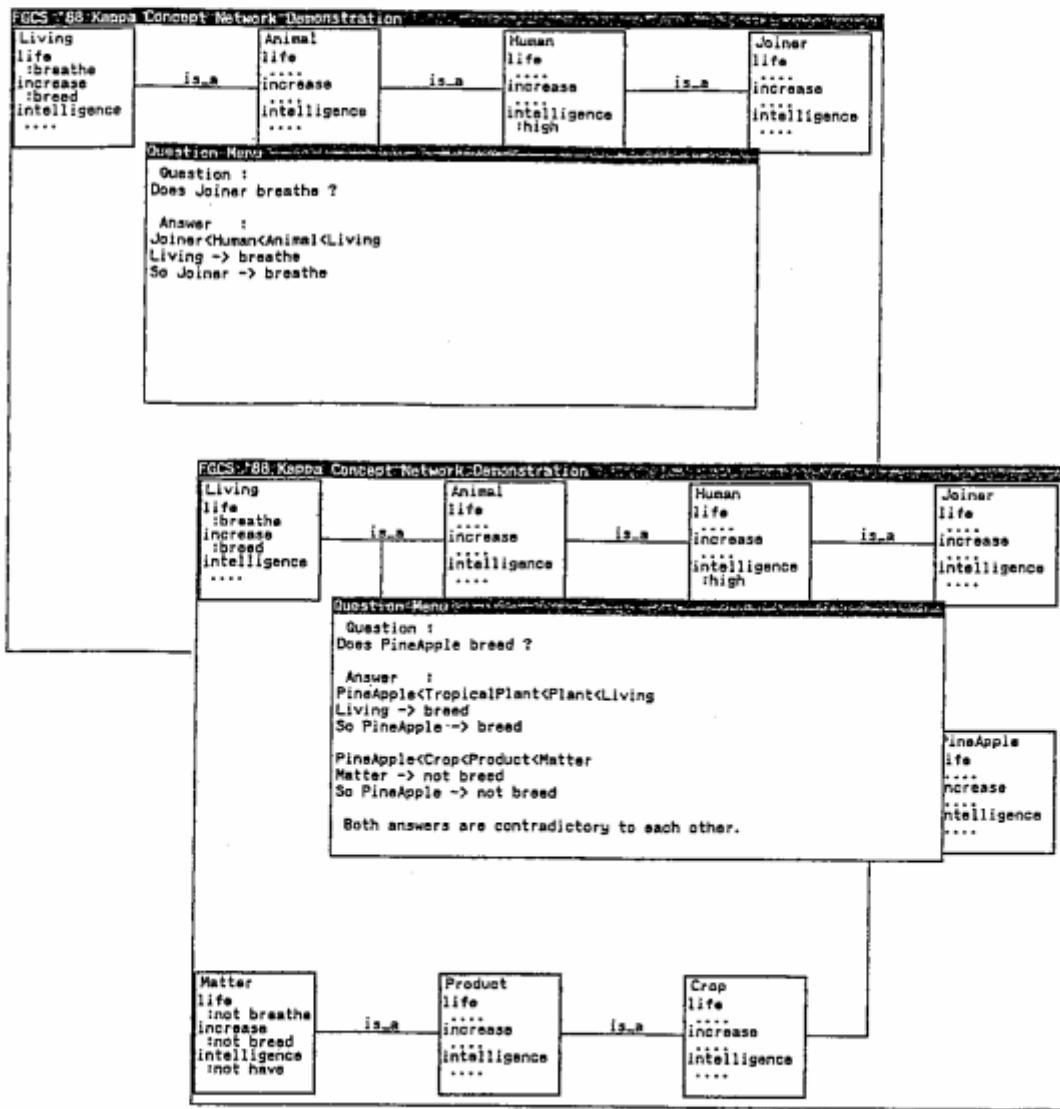
## デモ 内容 (2/3)

### 概念辞書の編集 : 2,4,5,6 関連デモ

概念辞書は概念間の関係を記述した辞書です。概念辞書は機械翻訳や知的情報検索などに役立つことが知られています。Kappa に蓄積された概念辞書は、概念ネットワーク形式シートにより容易にアクセスできます。ここでは、単語辞書と組み合わせて次の三つのデモ

- 概念の検索・追加
- 三段論法による基本的な常識の検索
- 多重継承により生じる矛盾の回避

の例を御覧にいれます。



## デモ内容 (3/3)

### 項(ターム)の蓄積・单一化検索:3,4関連デモ

Kappaが定理証明の分野でどのように有効に機能するかを御覧にいれます。デモでは最初に、ルールの集合、ルール中の演算子、演算子の優先順序を与えて、それから生成しうるすべてのルールを、冗長なルールを除きつつ、生成していきます。そして、その過程において、知識ベースの内容がどのように変化(追加、検索、削除)していくかを御覧にいれます。

Kappa Term Processing System Version 1.0	
condition data	operator data
(1) 0=A (2) A=A (3) A+B+C=A+B=0	0 < - < + 0+0 < - 0 < 0+0
rule data	operator data
No.rules	0 / 0 - / 1 - / 2 (lexicographic ordered left to right)
Kappa Term Processing System Version 1.0	
condition data	operator data
No.rules	<pre> read initialize acquisition write read automatic next equation list list interactive select trace prove new ordering no_trace reduce a term new symbol describe current equation convert sweep delete exit resistance critical pairs </pre>
display	
rule data	<pre> - 0=A =&gt; A ... (1) - (-A)=B =&gt; A+B ... (2) A-B =&gt; A ... (3) - (A) =&gt; A ... (4) delete (0 + (-A)) B =&gt; A+B A + (-A) =&gt; 0 ... (5) - 0 =&gt; 0 ... (6) delete (0) A =&gt; A A + (-A + 0) =&gt; 0 ... (10) A + (B + (-C + B)) =&gt; 0 ... (12) B + (- (A + B)) =&gt; -A ... (13) delete (0) A + (B + C + (-A + B)) =&gt; 0 + (A + B) + A =&gt; B ... (14) + (B - A) =&gt; -A + (-B) ... (15) delete (0) A + C + (B + A) =&gt; 0 delete (0) + (-A + B) + A =&gt; -B </pre> <p>Reach = Depth is terminated. Your system is COMPLETE.</p>
	Term